

9.16. 2018

詩篇 16 編 1～11 節

危険からの自由、神様の安泰の中で生きる自由

皆さんこんにちは。オンラインで参加して下さっている皆さんは、一ヶ月前にここでご一緒してから今まで何が起きていたのかご存知の方もいれば、ご存知ない方もおられると思います。ここ数週間は本当に沢山のことが起きていたのです。私達の多くにとって、仕事、教会、家庭と言った日常生活の他に、札幌市を通り過ぎた大型の台風と、その直後に襲った地震に対処しなければならなかったのです。これらからくるショック、混乱、不便や通常生活に戻すための苦労、これらが多くの点で今月を通常の月と異なるものとしています。これらの経験を通して私の頭によぎったこと、その特徴は、私達の毎日の生活をおくる上でも遭遇するであろう様々な種類、程度の危険ということです。

今日のメッセージで、私は、私達が生活していく上で起こったこれら最近の出来事について、神様が私に、神様の言葉を通して語られたことを分かち合っただけで済ませたいと思います。

このように、神様は私達に、時として私達の人生で起きる脅威や危険により良く対処することができるよう教えて下さることができると私は信じています。神様が皆さんや私に望まれていることの一つは、私達が神様の安泰の内に生きる術を理解することです。

私達が安全で居心地の良い場所にいるか本当の脅威に直面しているかによらず、神様は私達が神様の安らかな保証の中で生活できるように私達を助けることがお出来になります。

神様がこの機会を使い、私達が人々の中で神様の言葉によって、静かな勇氣、安定、自信、その他神様の平安によって根付いていけるようにして下さいを祈ります。

詩篇 16 編やその他の多くの詩の作者であるダビデは、危険の少ない、ストレスの小さい人生を生きただけの人ではありません。彼に関する多くの聖書の話を読めば分かりますが、彼の命を取り去ろうという人が多くいたことを知ることができます。それは、(a) 彼が若い時の巨人ゴリアテであり、(b) 彼がイスラエルの王となろうとしている時のサウル王の兵士であったり、(c) 内戦を起しダビデから国のコントロールを奪おうとしたダビデの息子のアブサロムの兵士だったりします。ダビデは危険と縁のない人ではありません。ですが、彼は危険が自分の行く手にやってくる時に、どこに行けば良いか知っていたのです。ダビデは神様へ目を向けたのです。彼は信仰が最大の力であると知っていたのです。何故ならば信仰こそが神様と自分をつなぐ接点であり、恐怖の時が来ても雄々しく立っていられる内面の力で、勇氣の源だからです。

ダビデが、 ” 神様、私をお守り下さい。私は安全を求めてあなたの身許へ行きます。“ (1 節) と祈る時に、彼のプライドは邪魔になるものではありません。

6 日の午前 3 時過ぎに地震があった、その直後、皆さんの心の中にはどのような言葉が浮かびましたか？ 「2011 年の時のように大きくない」とか「このビルが倒れなければいいな。」ということだけではなく、

私は、加えて心の中で、「神様、私達をお助け下さい。」と言っていました。

私はその所にあつて、ダビデが遠い昔に感じていたはずのなにかを感じ、ダビデと共にいたのです。その後起きた数時間の停電を経験することで、普段は気がつかないことを気がつきました。その一つは、静寂が非常に印象的であったということです。私が普段働いている時間の何と多くが電化製品の音で占められているかに気がつかされたのです。気がつかれましたか？

私は、インターネット、テレビなどの音を耳に入れすぎる習慣があつて、そのせいで健康や自然に関わる何かを締め出してしまっています。このことは私にとって、生活上のことや人々のこと、また自分の周りで起こっている事柄に、単純に注意を向けることができる良い機会でした。電化製品なしの静かな状態を強いられた時、いくつかのことが観察しやすくなると分かりました。

例えば、私と家族が無事だったのは、何年も前に、頭の良い人達が、どうしたら頑丈で信頼できるビルを作れるのかを学んでいたからです。それはわかりきったことなのですが、突然私にとって重要なことであると思えたのです。それは以前からも事実であったのですが、私が気がついていなかっただけなのです。停電は感謝する機会を与えてくれました。死んでしまったり、怪我をしたり、家を失ってしまった人達でなくて感謝でした。何故これらのことが、これらの人に起こり、私には起こらなかったのでしょうか。その訳を私は知りませんし分かりません。しかし、私は、生活上の最も大きな部分のどれほどの多くが自分の手によるものでない、と気付かされたのです。それは自分の健康、犯罪率や経済、自然も同様に含んでいます。これら全てのことを心に留めると、”あなたこそ私の主。私の幸いは、あなたのほかにはありません。” (2節)と祈ることが自然のことと思えるのです。

オープンドアのメンバーやそのほかの人々が、どのようにして、この地震がもたらした困難な時を通し、お互いが助け合うために一体となったかを見て、私はダビデが ”地にある聖徒達には威厳があり、私の喜びは全て、彼らの中にあります。” (3節)と書いていたこととの関連性を思いました。

私が受けた最初の連絡は佐々木牧師からのテキストメッセージで、私達が無事か確認するもので、合わせて、佐々木牧師が電話番号などを持っていないメンバーに私が連絡できるか問い合わせるものでした。それは、私達が信仰上のコミュニティーを持っていることを思い起こさせる大変明確なことです。私達は、安全上の脅威が出現した時に、お互いに、また私達の周りの人達と助け合うために一体となるのです。このことは私にとって、ここに神様がいらっしゃることを簡単に感じるができることなのです。トルストイの素晴らしい短編の題名のとおり、「愛があるところに、神様もまたおられる。」のです。

最近、タイへ行ったことで、日本のように強い経済を持たない国では生活がどんなに違うかということも気がつきました。私と一緒に旅をした学生のグループは児童養護施設における働きをしましたが、その中には、楽しいことも多いのですが、暑くて、消耗する労働を伴うものでした。私は子供達とフリスビーや色々なゲームをして楽しみました。the Baan Jin Jai Foundation and Children's Home Web site <www.baanjingjai.com> での写真を見て下さい。スクリーンにも映しますね。

私達はどんなに汗をかいて疲れたとしても、毎晩、冷房の効いたホテルに帰ることができたのです。

私達が働きに行った所の子供達にはありませんでした。何故、彼らの生活はそのようで、私達はそうではないのでしょうか？もし私が私の国ではなく、彼らの国に、私の家族にではなく、彼らの家族として生まれていたら、私は彼らと同じ困難に直面していたはずですが。しかしながら私は、それらのことから自由なのです。私は恵みによって生きていると益々思われる(思い起こさせられる)のです。またしても、私は、ダビデが、5～6節で”主よ、あなたが私に下さっている全てのものは良く、貴方は私の生活を保障して下さい。私はあなたが下さるものを非常に喜んでいます。私があなたから頂くもので私は幸福です。“と書いたように、心からそう言える納得できる理由を見つけたのです。

地震があった後、私は、アメリカで中学生時代に家族と共に電気がない生活を4日間過ごしたことを思い出しました。夏の嵐が電力を駄目にしたのです。灯にはロウソクを使い、エアコンに頼らずドアや窓を開けて過ごし、夜は、なんと早く暗くなるのかと思いました。テレを見て楽しむこともできず退屈でもあり、結局、私は早寝をしていつもより長く眠ったのです。

今月地震の後で、私はこれと同じようなパターンの生活をするようになり、その時、「これは全く悪い訳ではないな」と思ったのです。私は本当に睡眠を必要としているのです。それは電気による灯(あかり)と電気が作る音という刺激を絶え間なく受けていた時に自分が思っていたより以上にです。明るい時に起きて暗くなったら眠る、これは普段私が考えたことのないアイデアですが、そのようにしようとした時、なんだかかなり自然なことに思えたのです。

考えてみれば、これまでの長い歴史のほとんどで、人間はそのように暮らしてきたではありませんか。多分私はもっと続けるべきかもしれません。きっとそうするには、アルコール中毒の人が健康的な生活パターンを手に入れる前に最初にアルコールを体内から抜かなければならないのと同様、”解毒(老廃物を取り除く)”という段階を体験する必要があるかもしれません。その段階は心地よいものではありませんが、何かもっと良いものを得るために経験する価値があります。

私達の多くにとって良い何かとは、”より単純な生活 simpler life” なのです。それはむしろ、パウロが第1テモテ6章8節で述べたこと”私達は何一つこの世に持ってこなかったし、何一つ持って出ることもできません。衣食があれば、それで満足するべきです。“の考えに近い感じです。

このような態度は今や非常に魅力的に思えます。シンプルに生活することに満足するのは現代社会の全ての便利がない状態のような困難時を乗り越えることができる助けです。これは本当にそうですね。ダビデは神様のことについて語って、7節では、”主は私に良き助言を下され、夜になっても私の心が私に教える。”と語っています。主を褒め称えるもっともな理由で、詩篇の作者も褒め称えると言っています。

更に、ダビデは私達が聖書の後半で再び聞くことになる部分を伴って続けます。彼は、8節～11節で”私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。”と始めますが、新約聖書に目を向けた時に興味深いことが起こります。ペテロがキリストが復活された直ぐ後でエルサレムの人々に対して行った有名で力強いメッセージで、この部分の言葉を引用していることです。それは使徒の働き2章25～28節で読むことができます。その日、ペテロが届けた神様の言葉を聞いた

約 3000 人の新しく信じた人々が教会に入りました。

これらの言葉は、イエス様の死後、国の権力への恐れから、直前まで家に鍵をかけて引きこもっていた人のものとしては驚くほど大胆な言葉でした。(ヨハネ 20 章 19～30 節)

彼とその他の弟子たちは、イエス様を糾弾した者達がイエス様にしたような事を彼らにもするだろうと思ひ、ずっと恐れの中にいたのです。

それは不合理で道理のない恐れではあったのですが、彼らには、自分達が危険に陥り恐れの中で生活をするかもしれないと考える大変大きな理由があったと思われ、それは実際彼らの答えだったのです。しかしペテロと他の弟子達が復活されたキリストに出会った時、何かが完全に変わりました。彼らは人々の中に出て行きイエス様が再び命を得たという驚くべき知らせを告げ始めるほど勇敢になったのです。

イエス様は神様が彼らとともにいるということの生きた事例です。この信仰から離れるはずがないという勇気で満たされた事を知り、ペテロ自身は自分が信ずる” 私はいつも守られ安全である。” という真実を語ります。(詩篇 16 章 8 節)

しかし、もっと他のことがあるのです。ペテロはこれらの言葉をキリストご自身と結び付けたのです。

(9～10 節) “それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでる。私の身もまた安らかに住まおう。あなたは私を墓の中に置いたままにされない。あなたに忠実な者を腐らせません。” ペテロの話を聞いていたユダヤの人々はこれらの言葉をよく知っています、ですが人々はそれらを単純にダビデの言葉だと理解しています。

さてペテロは、これらの言葉がどのようにしてキリストの言葉にもなったかを、神様が十字架上で死なれたキリストの命を引き上げられる仕方を語ることで表します。

ペテロの話を聞いている人々は、イエス様を、多くの人々が思っているような普通の人、ではないと理解し始めるのです。神様御自身が何年も前から、イエス様を通して、神様が聖書で神様の言葉で約束していた、何か偉大な、生き方を変えるようなことを世の人々に与えようと計画し働かれたのです。それこそがキリストの死と復活を通して得られる永遠の命の贈り物です。このことこそ、危機的状況に又は死そのものに勇気、平安、強い安心感を持って直面できるよう人に勇気をもたらす希望です。それこそが、臆病であったペテロや他の弟子を、キリストの人生を変えるメッセージを大胆に宣言させるまでに変えた力です。それこそが、この世界におけるキリストの御生涯のより深い意味であり、良い教えを与えることや従うべきお手本というだけではなく、永遠の命そのものなのです。それこそが、全世界でそのことを信じる全ての人にとっての最上の人生であり、天の御国へと続く道なのです。

ですから、それが、皆さんや私が、ダビデ、ペテロそしてキリストと一緒に、” あなたはいつも命に至る道を私に示されます。あなたは、私があなたと共にいる時に私を喜びで満たされます。” と神様に言うことができる全ての理由です。危機の時そしてどんな時でも、私達は詩篇 125 編 1 節にある “主に信

頼する人々はシオンの山のような。ゆるぐことなく、とこしえにながらえる。”という約束に堅く立ち、また今日ヘブル人への手紙 6 章 19 節にあるとおりの信仰を告白して言いましょう。“私達の希望は確かです。それは魂のためにしがみつくもので、強く安全です。”

アーメン。神様が皆さんの心の内で皆さんを強められますように。そうすればこの先の将来、毎日、キリストにある変わることのない安心感を持ってこの世界の危険と直面することができるようになります。神様ご自身の言葉に基づいて、私は皆さんに、キリストを基本にした自由な心(精神)で毎日を生活すると心の中で約束されるようお勧めします。それは、この世界の危険から自由になっているということであり、神様が、皆さんの人生の全ての部分を神様の御手のなかに置いているという揺るがない自信を持って生活する自由を持っているということです。

神様が私達をそのような人にして下さるよう祈り願いましょう。

神様、ヤコブ書 4 章 14 節であなたが言われている御言葉、” あなた方は明日何が起きるのか、知ることさえできません。あなた方の命とはなんでしょう。しばし現れて消えてしまう霧のようなものです。“はその通りです。自然や人生の多くの部分の力の前では、私達は自分が小さいことを知っています。ですが、キリストにあって、私達は神様あなたが偉大なお方であることを知っています。あなたの驚くべき愛によって、あなたは、あなたの力強い御手の中で私達自身を置かれ、私達が休むことができる道を備えられました。

私達が危難に直面する時、またどのような状況に於いても、私達が、私達の愛する父、全能の神様の御手の中にいるということを知る確信をもって前に進む決断ができますように助けて下さい。

あなたのひとり子イエス様のお名前によって祈ります。アーメン

ダビデの祈り

- 1 神様、私を守って下さい。私は安全を求めあなたの身許へ行きます。
- 2 私は主に申し上げた。” あなたこそ私も主。あなたなしでは、私に良いことはなにもありません。
“
- 3 私達の土地に住まう神の僕には栄光がある。私は彼らを見て非常に喜ぶ。
- 4 他の神々に追い求める者には困難以外持つことができない。私は、それらの神々に血を捧げものとして注ぐことはない。私の唇は彼らの名を呼ばない。
- 5 主よ、あなたが下さったもの全ては良きものです。あなたは私の人生を安全にされてきまし

た。6 あなたが私に下さったものを私は大変喜んでいますが。私はあなたから頂いたもので大変に幸せです。

7 私はあなたを褒め称えます。主は私に良い助言を与えて下さいます。夜でも私の心が私を教えます。

8 私は、主が私といつもいて下さることを知っています。主は私の右側にいて下さいます。私はいつも安全です。

9 それで私の心は喜んでいますが。喜びが私の舌にあります。私の身体もまた安全です。

10 あなたは私を墓の中に置いたままにされません。あなたはあなたに忠実な者を腐らせません。

11 あなたはいつも命に至る道を私にお示しになります。あなたは、私があなたとともにいる時私を喜びで満たされます。あなたはその右の(正き)手で尽きることのない喜びをお与えになります。